今年もハロウィーンイベントをおこないました。

国際社会学科

KIU HALLOWEEN WEEK 2022 は、近年、秋のイベントとして定着しているハロウィーンを、多世代交流のイベントとして実施することで、地域を盛り上げることを目指す、九州国際大学現代ビジネス学部国際社会学科の宮武ゼミが中心となって実施する地域貢献活動です。

今年は 10 月 27 日から 31 日までの 5 日間にわたって開催されたこのハロウィーンイベント、大いに盛り上がりました。

初日の 27 日にはスタードームの点灯式と歌謡祭、28 日には学内でスタンプラリーが実施されました。

29 日の土曜日には、このハロウィーンイベントの一環として、先日火災が発生した枝光本町商店街を元気にするべく、学内で募った寄付金と励ましの言葉が書かれた色紙を持参して、枝光本町商店街を訪問しました。

枝光商店街を訪問した時の様子。この日は終日、このようなかんじで、多くのお店を訪問し、挨拶をしていきました。

九州国際大学は旧八幡大学時代には枝光にキャンパスを構え、本学の教職員や学生たちが当時、枝光本町商店街に並々ならぬお世話になっていました。そのような経緯から枝光商店街をサポートすべく、また再びご縁を繋ぐべく、このたびこのようなイベントを企画いたしました。

この日は、午前中から午後にかけて、学生たちが開店しているお店をひとつずつ訪問し挨拶をしていきました。そして、最後に寄付金と寄せ書きをお渡ししました。

この様子は、翌日の**西日本新聞に掲載**されました。

また、29・30 日には、地域の皆さんを学内に招き、英語に親しんでもらうイベントとして、花尾小学校の児童たちが来校し“Trick or Treat”を正しい発音で格好よく言えた子たちはピニャータを割ってお菓子を獲得できるというイベントも実施しました。幼い頃から正しい発音を「聞いて、話す」ことで英語を身近に感じてもらうことで、教育効果を狙ったこの企画、わたがしのキッチンカーも出店し、子どもたちを中心に盛況なイベントとなりました。

最終日である 10 月 31 日の月曜日には、カボチャカーヴィングと仮装大会が開催されました。参加したゼミがそれぞれ趣向を凝らした仮装を披露してくれました。ゼミとして統一したテーマで仮装した様子は、どれも見ごたえのある楽しいものとなっていました。

さらには、31 日の午前中には、地域の保育園である済美保育園の園児を学内に招き、英語に親しんでもらうイベントを実施しました。具体

的には、大学生が園児に“Trick or Treat”を正しい発音で格好よく言えるよう指導し、それができた子たちはピニャータを割ってお菓子を獲得できるというイベントでした。こちらも、幼い頃から正しい発音を「聞いて、話す」ことで英語を身近に感じてもらうことで、教育効果を狙っているイベントでした。

この様子は、当日の NHK の夕方のニュース番組「ホッとイブニング」でのハロウィーンの話題として、FBS で 15 時から放送される「めんたいわいど」でのハロウィーンの話題のトップニュースとして、放送されました。

次の文章は、このイベントの運営に携わった宮武ゼミの学生たちの手記となります。

「花尾小学校でワークショップをやっていて、発音はやっぱり小さい頃から学ぶ方が効果的だと思ったので、まずは花尾小に行きました。しかし、もっと小さい子たちに正しい発音を教えたなら、より教育効果が高くなるのではないかと思い、保育園児を対象にしました。

済美保育園の園児たちとの英語発音ワークショップの様子。よく見るとわかるかと思いますが、NHK と FBS というふたつのテレビ局の取材がありました。そして、当日の様子をその日の夕方と午後の番組で放送してくれました。

保育園児と小学生では、日本語レベルが違います。小学生は、小学校で国語の授業もありますので、こちらがそのレベルに合わせることができやすく、子どもたちもこちらの話がそれなりにわかります。それに対して、保育園児は、最低限の説明にとどめなければ、何をやっているか、何を修得することが目指されているかといったことが、わかりません。そもそも何かを修得するということ自体がわからない。ほんの１・２年の歳の差の違いでも、幼児と児童では、成長の差が大きいため、ワークショップを成立させるために必要な配慮や工夫が異なってきます。そのため、保育園児に合わせたワークショップを作るということ自体が、難しいものだと感じました。」（佐々木花菜　４年）

「今年のハロウィーンウィークでは、企画から開催までの準備を全て宮武 3 年ゼミが行いました。これまでは先輩方の力を借りて準備を行っていましたが、我々3 年生のみで準備を行った際に、書類の作成や機材の確保など慣れないことが多く立ち止まってしまうこともありましたが、担当の宮武先生や先輩方からアドバイスを頂き成功することが出来ました。

これらの活動から学んだことは物事を俯瞰的に見ることです。物事を俯瞰的に見ることによって改善点や新たな考えを提案することが可能になるのでこの力をこれからも生かしていきたいと思っています。」（北島直樹　３年）

「今回のイベント宮武はゼのミ 3 年生が中心となって運営しました。自分はイベントのリーダーをするのが初めてで何をしたらいいか全く分かりませんでした。そんな時に 4 年生に、これからの計画の立て方やイベントの運営の仕方、指示の出し方などを教わりました。イベントのひとつとして枝光商店街に仮装をしてパレードに行きました。小さなお子様からご高齢の方まで皆さんに手を振っていただきました。商店街にいた方に商店街を歩いてもらうだけで元気が

出るから嬉しいと言われました。その時に自分たちも喜んでもらえて嬉しいし、このイベントをやって良かったと感じました。この様子を西日本新聞の方に取材され、新聞に載りました。

また、済美保育園の園児を学内に招き「Happy Halloween」と「Trick or Treat」の発音をかっこよく言えるように教えました。帰る時にも英語で発音している子がいて楽しかったんだろうなと教えた側の自分たちも嬉しくなりました。教えることの難しさもありますが、その分楽しさや嬉しさも感じることが出来ました。

始まるまではほんとにこのままで大丈夫なのかと心配していましたが、終わってみると取材もたくさんされて、商店街の方や園児達にも喜んでもらえて、大成功したイベントになったのではないかなと思います。」(太田椋一朗　３年)

「私がハロウィーンリーダーを経験して感じたことは、人をまとめ動かすことの大変さです。他にも、莫大な仕事量を限られた時間でどうこなしていくか、みんながやりたがらないことや重要な案件を責任もって行わないといけないということです。やるべきことが多く、どこから手を付けていいかわからない状況で、気持ちばかりが焦ってしまい、行動が伴わず、きつい思いもたくさんしました。毎日朝から夜遅くまで大変で、体力面よりも精神面の方がしんどかったです。去年は先輩がメインで、私は大したことをしていないので、自分がリーダーをしてイベントの規模の大きさを知り、先輩の偉大さにも改めて気づいたし、実際に自分でやってみないと分からないことばかりだと思いました。イベントが成功するかとても不安でいっぱいでしたが、ハロウィーンウィークは成功に終わったのではないかと思います。色々ありましたが、良い経験になりました。」(高橋湖々　３年)

最後に、保育園児からのお礼の歌の披露もありました。

「私は今回小学生と、保育園の園児にワークショップを行い、貴重な経験をすることができました。今までは先輩が中心となって行っていたワークショップも今回から私たちが主体となり、不安もありましたが、毎日夜遅くまで練習して良いものを作り上げることができたと自分でも思っています。そして小学生が楽しそうにワークショップに参加してくれて、自分たちが考えたもので楽しく正しい発音を覚えてくれた時にやりがいや達成感を感じます。

そして今回は済美保育園の園児にもワークショップをやるということで、小学生と同じ教え方ではダメで、もう少し園児向けの簡単な言葉で作らないといけませんでした。済美保育園のワークショップの時はテレビの撮影がくると言うことで、大きいカメラが何台もありいつもとは違う雰囲気でやらなくてはならなかったので、より緊張しましたが、そこまで注目されている活動の中心にいるんだというのがとても誇らしく感じました。」(平川准太　３年)

本学の秋のイベントとして定着したといっても過言ではない、宮武ゼミが中心となって毎年実施しているハロウィーン。今回は新聞社やテレビ局の取材も入るなど、注目度も段違いでした。そして、学生たちがイベントの企画・運営を通して成長する姿を見ることができたことは、教員として誇らしく思えるものでありました。

みなさん、お疲れさまでした。